

公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和7年3月

藍住町教育委員会

【藍住町 端末整備・更新計画】

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	3,103	3,079	3,100	2,812	0
② 予備機を含む 整備上限台数	0	3,540	0	0	0
③ 整備台数 (予備機を除く)	0	3,079	0	0	0
④ ③のうち基金 事業によるもの	0	3,079	0	0	0
⑤ 累積更新率	0	100	100	100	100
⑥ 予備機整備台数	0	461	0	0	0
⑦ ⑥のうち基金 事業によるもの	0	461	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0	15	0	0	0

(端末の整備・更新の考え方)

令和2年度の GIGA 構想第1期で整備した 3,178 台について、児童生徒用 3,079 台と予備機 461 台の合計 3,540 台を更新する。

OS の変更を計画しているため、各児童・生徒毎に差が出ないように、一括で調達することを考えている。また、端末の持ち帰りが困難な、現在のオンプレミス型(サーバ型)から、速やかに WEB 型(クラウド対応)に変更するため、令和 7 年度中に共同調達、設定等を行い、令和 8 年度当初に運用開始する。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数:3,178 台

○処分方法

・新端末の納入業者等に引き渡し、再利用・再資源化することを促す。:3,098 台

・学校において、教職員が事務等に利用。:80 台

○端末データの消去方法

専門業者に委託

○スケジュール(予定)

令和7年 8 月 処分業者の選定

令和7年 9 月 新規端末使用開始

令和 8 年 3 月 使用済み端末の業者への引き渡し

【藍住町 ネットワーク整備計画】

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)

・藍住町立 小学校:4校 中学校:2校 計6校

必要なネットワークが確保できている学校数:6校(100%)

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和6年度末までに各学校の速度の確認を再度行う

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール(予定)

令和6年度中に、インターネット回線を10Gへ移行する。

令和7年度、端末更新と同時期に、ネットワーク設定の変更と改善について業者委託する。

【藍住町 校務DX計画】

文部科学省が打ち出した、GIGAスクール構想は第二期を迎えようとしており、当町では小中学校全児童生徒へ導入した1人1台端末と、全普通教室に導入した電子黒板及び、学校のインターネット環境を十分に活用し、校務DXを進めていく。

1. アプリケーションの導入について

各小中学校、幼稚園に連絡アプリケーションを導入し、保護者向けの通知文書やアンケート等の電子化を行っている。また、児童生徒の欠席連絡や健康状態の連絡も同アプリケーションで行っており、業務のペーパーレス化や、教職員の業務改善につながっている。

中学校では、テストの採点業務をアプリケーションで一部自動化することを検討しており、さらなる教職員の業務改善を目指す。

1人1台端末の生徒用学習システムについては、現在、学校における授業で確実に動作するようオンプレミス型を採用しているため、端末の持ち帰りに制限がある。整備したICT機器を十分に活用するため、次期端末の更新時にはシステムのクラウド化を進める。同時に、通信環境の改善を行い、校務系システムについても職員室以外の通信環境を整え、オンラインによる会議や資料のやりとりが行えるようにする。

2. 学校業務支援システムの有効活用について

令和3年4月より徳島県内全公立小中学校で、「学校業務支援システム」を運用している。学校業務支援システムは、教職員の円滑な情報共有を行うためのグループウェアと、児童生徒の情報や学校の予定等を管理する統合型校務支援システムから成っている。グループウェアにはメールや出退勤記録、掲示板、回覧板等の機能があり、統合型校務支援システムには通知表や指導要録、出席簿、時間割管理、保健（健康診断等）、学校予定管理（学校行事や教職員の出張・休暇の管理）等の機能がある。これら機能を使いこなすことで、業務の効率化やペーパーレス化を図る。

令和7年度末に、学校業務支援システムの運用保守の期間が終了する。令和8年度以降も校務DXを推進するためにシステムへの在り方についても検討していく。

3. ICT支援員の有効利用及び職員の技術の向上について

令和7年3月から委託業務により配置したICT支援員を通じて、これまで学校ごとに培ってきた技術やノウハウを、すべての学校に反映させ、校務DX化を加速させる。

また、導入したアプリケーションやクラウドサービス等を円滑に利用するため、職員への研修等を行い、同時に情報漏洩に対する知識や対応等を身につけるようにする。

【藍住町 1人1台端末の利活用に係る計画】

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(令和3年1月)等を踏まえ、整備したICT環境とともに、一人一台端末を効果的に活用し、質の高い学習活動を実現できるよう、児童生徒、教職員誰もが、抵抗なく利用できる1人1台端末を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

GIGA スクール構想第1期として、令和2年度に各小中学校の高速大容量通信ネットワークを整備し、令和3年度に小中学校全校児童生徒にタブレット端末の配備を完了している。また、令和4年度にすべての普通教室に電子黒板を設置した。

学校規模や当時の通信インフラ状況を考慮し、学校の授業で機器を最大限活用できる事に重点を置き、授業支援ソフトやドリルソフトなどを学校サーバにインストールして運用する、オンプレミス型を採用した。これにより、授業での通信速度が担保された反面、端末を持ち帰って運用することが難しいという課題があった。

GIGA スクール構想第2期では、学習支援ソフト等のクラウド化を進めるとともに、各学校のインターネット環境も強化する。また、ICT 支援員を配置し、教職員の補助やスキル向上を行う事で積極的にICT 技術を活用できるようにする。また、得られた知識や技術を、各学校や教育委員会で共有することにより、教育現場全体のレベルアップを図る。

3. 1人1台端末の利活用方策

「1人1台端末の積極的活用」

教職員が積極的に学習アプリやデジタル教科書、ICT 技術を積極的に活用できる環境を整えるため、ICT 支援員を配置する。端末から得られる学習履歴を利活用することにより児童生徒一人一人に応じた細やかな指導をめざす。学校間で情報交換を行い、技術の共有を行う。

「個別最適・協働的な学びの充実」

AIドリルを導入し、児童生徒個人の特性や、学習進度・理解度に応じた学習を行う。チャットツールや検索ツールを利用するなど、教職員と児童生徒、児童生徒同士のやりとりや情報の共有をICT で実行し協働的な学びを充実させる。

「学びの補償」

不登校や体調不良により授業に出られない児童生徒に対して、オンラインによる授業の提供や、心や体に不調を訴える児童生徒の早期発見に有効なアプリケーションの活用、近年増加する外国人児童生徒に対するコミュニケーションツールとして活用する等、端末を十分に活用し、誰一人取り残されない学びの補償を実現する。